

## 平成 24 年度北はりま定住自立圏共生ビジョン懇談会 議事録

開催日時	平成24年 3 月 1 日（木）午後 2 時00分～ 4 時00分
開催場所	西脇市生涯学習まちづくりセンター 3 階ホール
出席者	委員12名（欠席：和田委員、藤本委員、笹倉委員、藤井委員、丸山委員、池田委員）、オブザーバー7名、事務局4名

### 1 西脇市長あいさつ

委員の皆様には、ご多忙の中お集まりいただいたことにお礼申し上げたい。

平成 22 年 9 月に、西脇市・多可町両市町の議会において「北はりま定住自立圏形成協定」締結の議決をいただき、10 月に懇談会を設置させていただいた。そして、平成 23 年 3 月に「北はりま定住自立圏共生ビジョン」が完成し、そこから 1 年が経過しようとしている。

定住自立圏については、両市町の行政が主体となって行政サービスの質を上げていくことが大きな目的であったと思う。これまでの成果を見ると、広域斎場の増設や、消費生活相談窓口の相互利用、また西脇病院と多可赤十字病院、多可町診療所との病病・病診連携も進んでいる。特に、小児医療を守る会には以前からご活躍をいただいているが、その中に多可町のメンバーもお入りいただき、圏域としての取組となっているとの報告も受けている。その他、農産物の供給や、空き家バンク制度の調整、また郷土資料館における共同企画展の開催などを進めていこうとしている。

ただ、地域の皆様にとって、定住自立圏とはどんなものなのか、どのように進んでいるのか、という状況が見えないのではないかと感じている。24 年度から本格的な事業展開を図っていくこととなるが、住民生活の利便性の向上を高めるものでなければならないし、また、定住自立圏の事業が地域の皆様から認知されるようにならないといけないと思う。より豊かで充実した取組を進めていければいいと思う。

委員の皆様には、今日が任期最後の会議となるが、事業が本格化し、面白くなるのはこれからだと思っているので、ぜひ関心を持っていただければと思う。

### 2 委員等出席者の紹介

新委員として、多可町区長会長の吉田政義氏にご就任をいただいた。

### 3 議事

#### 報告事項 北はりま定住自立圏共生ビジョンの進捗状況について

会議資料に基づき、事務局から進捗状況について説明

- （委員）・19 番「担い手育成対策事業」について、視察研修等はどうされるのか。
- （市担当）・担い手育成については、この 3 月に合同で講演会を行う予定としている。
- （委員）・27 番「水位監視対策事業」のカメラについては、どこに設置するのか。
- （市担当）・由縁橋に設置されているが、県で管理をしており、3 月中に試験を行って、その後ホームページで見られるように対応していきたい。

- (委員)・県というのは県のどの機関か。
- (市担当)・加東土木事務所である。
- (委員)・では、加東土木事務所からどのように市へ報告があるのか。
- (市担当)・今後協議するが、ホームページで見られるようにするため、またアドレス等は周知させていただく。
- (委員)・情報が伝わるまでに時間がかかりかかるのではないか。
- (市担当)・パソコンで閲覧できるので、すぐに見られるものである。
- (委員)・29番「広域斎場増設整備事業」について、斎場に新たに駐車場はどのくらい設置されるのか。
- (行政事務組合担当)・新たに57台を整備する。
- (委員)・斎場の敷地内に古墳群があるが、文化的な価値はかなりあるのか。
- (市担当)・寺内古墳群というもので、28基の古墳がまとまって残っているものである。まとまっているということで、非常に重要なものだと考えている。
- (委員)・農産物直売所が23年7月にオープンしたが、頑張って商品を出している。ただ、特産品開発の部門でも、他の団体などと切磋琢磨しないといけないのかな、と思いつつ、これからどうやっていけばいいのだろうとも思ってしまう。
- (市長)・もともと農産物直売所は、農協が管理をするという前提のもとで事業を進めてきたが、結果として農協の経営する「フレスコ」と共存する形となった。ただ、フレスコはスーパーの一部と思っているが、直売所は農家のための施設にしていってほしい、と常々言っており、施設整備は行政で実施したが、直売所を起点として運営するのは農家の方をお願いしたい、という思いを持っている。これから2年後には、農家の皆様の自主運営という形をお願いするという方向付けをしている。農家の皆さんの判断で運営をしていただけるような形にしていきたい。
- (市担当)・直売所の出荷者協議会については、2年先には法人化に向けた検討も進めているし、開設当初60名であった会員さんも現在は250名強となっている。会員さんも増えてきているので、大いにバックアップをしていきたいと考えている。
- (委員)・35番「一般県道中安田市原線バイパス整備事業」について、要望活動をされているとのことだが、その後の進捗状況はどうなっているのか？
- (市担当)・これは県道であり、多可町と西脇市とが連携しての取組は県への要望活動ということになり、昨年8月に期成同盟会を立ち上げ要望活動を続けている。状況としては非常に厳しいが、要望活動を続けていきたいと考えている。
- (座長)・51番「有害鳥獣有効活用事業」について、シカ肉処理に関しては、シカ肉の加工場を整備して商品の売り出しをしている例もあり、どんどんそのような施設を活用していけばいいと思う。
- (委員)・66番「圏域観光交流連携推進事業」について、観光交流の部分では、行政だけではなく、NPOなども巻き込んで広く展開されるのがいいと思う。

## 協議事項 平成 24 年度実施予定事業（案）について

会議資料に基づき、事務局から実施予定事業について説明

- （委員）・32 番「コミュニティバス運行事業」について、西脇市、多可町それぞれのコミバスの利用状況を教えてほしい。
- （市担当）・西脇市では、「しばざくら号」と「おりひめバス」の 2 台のコミバスを運行している。また、昨年の 10 月からは、黒田庄地区で「つくしバス」の自主運行を実施されている。利用状況については、しばざくら号、おりひめバスともに利用者の減少が続いており、1 便当たりの乗車人数が 2 人弱という状況である。また、つくしバスについては、現在自主運行ということで無償運行をされており、以前の有料の際は 2.6 人程度であったが、今は 3 人近くとなっており、月によっては 3 人を超える場合もある。
- （町担当）・多可町では、公共交通の維持という点に軸足を置き、西脇市への連絡バスと、町内の移動のためのバスと 2 種類を運行している。町内循環バスは 4 系統で、これについては高校生等の利用があるが、少ないものでは 1 便当たり 2～3 人、多いものでは 10 人程度の利用がある。西脇市への直通バスについては大変多くの方に利用いただいております、開始からの乗客が 100 万人を突破し、そのイベントも開催したところである。直通バスについては、割安感があるので多く利用いただいていると考えている。
- （座長）・利用者のニーズをどう把握するのか、という点がポイント。このことは農産物直売所にも言えると思う。ちょっとしたアイデアで乗客増につながることもあるので、ぜひ頑張ってくださいと思う。
- （委員）・コミバスについて、今、事業者の営業路線には他のコミバスを走らせることができない、ということを知っているが、ここに上がっているバス停設置については実現可能なのか。
- （町担当）・バス停の新設について、現在、多可町のコミバスは曾我井を出てから西脇市役所まではノンストップで走っているが、途中の商業施設などにバス停を作れば、西脇市内の方がそこからバスに乗って病院に行く、という利用も出来るし、多可町の方も西脇市内の商業施設で降りて買い物ができる、ということで、西脇市、多可町双方の住民ともに使い勝手が良くなるだろう、と考え検討を進めている。
- （委員）・ぜひその方向で検討を進めてほしいと思う。
- （座長）・東灘区では、NPO がバスを走らせている。
- （委員）・事業者とコミバスとの関係の話が出たが、コミバスは西脇市、多可町ともに走らせており、路線バスの停留所とコミバスの停留所が併存している状況にある。例えば時刻表の統一など、利用者にとってより利便性の高いものとなるよう検討をしていただければと思う。
- （委員）・二地域居住、とはどういう意味か。西脇市にも住み、多可町にも住み、ということなのか。
- （市担当）・二地域とは、普段は都会に暮らし、週末には短期的に田舎暮らしをする、と

というようなイメージである。

(委員)・空き家情報バンク制度とは、どのような制度か。

(町担当)・空き家と空き工場について、所有者の方から情報提供をいただき登録をしている。都市部から田舎へ来たいという方の登録も行っており、多可町のホームページを介して、両者で合意をいただければ契約に進むこととなる。

(委員)・それは民業(不動産業)の圧迫にはならないのか。

(市担当)・物件を登録するに当たり、宅建協会と市町が契約を交わし、協会が持主と買主との仲介をされる、というのが一般的なケースである。全国で行われている空き家バンク制度でも、行政が直接中に入って話をするのはほとんど見かけず、ほとんどは宅建協会と契約されているということでご理解をいただきたい。

(座長)・今、淡路市では廃校跡に植物工場を作って、淡路の食生活や農業を支援しようという取組が進んでいる。そのような活用事例も出てきている。

#### 4 意見交換

(委員)・北はりま定住自立圏の事業の進捗状況を見ると、いい方向に向かって進んでいるなと思った。地域医療を守る分野においても、多可町への情報発信を行っているところであり、協力しながら活動が広がっていけばと思っている。

(委員)・先日の高校新人駅伝は、まさに西脇多可が一体となって盛り上がり、いい大会になったと感じている。先ほど説明があった文化財企画展の共同開催は、非常にいい取組だと思う。このようなイベントはPRが大事であり、積極的な情報提供をお願いしたい。また、両市町が有する施設の相互利用も非常にいいことであり、協議も進められていると思うが、どんな施設を考えておられるのかなど、その協議過程を分かりやすく示していただきたいと思う。

(市担当)・具体的には、テニスコートの相互利用や、多可町には陸上競技場がないため、多可町側が主催される大会を西脇市の陸上競技場を使って実施することなどを考えている。文化施設でも、ベルディーホールや市民会館などの相互利用など、お互いに連携しながら事業展開ができればいいと考えている。

(委員)・コミュニティバスの利用度が低いと聞いたが、やすらぎ苑の利用が増えているものの、年配の方が葬式に行く手段がなく、そのために参列できないという不便があると聞いている。例えば、専用のバスを走らせるとか、コミバスを活用して何かできないかなとも思った。

(委員)・35番「一般県道中安田市原線バイパス整備事業」をぜひ進めていってほしい。また、平成の大合併が終わって定住自立圏構想がスタートしたが、定住自立圏は、合併に変わる政策というとらえ方をすればいいのか、それとも定住自立圏構想を受け次の合併へ進んでいくのか、将来的にどうなるかということを知りたい。

- (事務局)・定住自立圏は、将来の合併に結び付くという前提のものではないので、ご理解をいただきたいと思う。合併という考えは抜きにして、お互いに、この圏域の中でどう定住自立を進めていくかが大きなテーマになるかと思っている。
- (委員)・若者がこの地域に根付き、この地域で仕事ができるようにしてほしい。昨年度、新規企業が立地し、現在、比延地区で工場団地の造成も進められているが、このような動きをもっともっと進めていただきたいと思う。防災面から見ても、地元の消防団員で昼間に動ける人がいないのも事実であり、このことから、若者が地元で根付くような取組を進めてほしいと思う。
- (委員)・年々、農業をされる方が減っている。このままでいくと、農業をする人がいなくなってしまうのではと思う。個人で農業をする時代ではなくなり、集団営農組合を作らないとやっていけなくなった。農業をする人が集まって、これからどうやっていくのか、ということを考えていかなければならない。
- (委員)・先日、多可町にシカ肉処理加工施設がオープンした。報道がされた後、どこに行ったら買えるのか、贈るにはどうすればいいのか、という声も聞こえてきた。小規模施設という現状を踏まえながら、ここで買えるんだ、という情報をきめ細かく流していくことが大切。また、シカ肉に関する色々な情報提供も大切だと思う。
- (委員)・新聞紙上でも御存知かと思うが、加東市と小野市の路線バスへの補助の問題が持ち上がった。市町をまたぐと色々な問題が出てくることもあるが、こういったケースは私も初めてである。このような動きが広がると生活路線の存続すら危うくなっていくと考えている。そのような中、この定住自立圏の中で公共交通のことを議論していただけるのはありがたいと思っている。また、NPOでの自主運行について、他市町で実施されているところもあるが、継続性、安全性など様々な問題も出てきているので、幹線までをつなぐルートで運行されるのがいいのではないかなと思う。
- (委員)・先ほど高校駅伝の話があった。スタッフの方は大変だっただろうが、大成功だったと思う。「駅伝のまち」西脇を全国に発信するアピール効果は大きかったと思う。また、皆さんにお願いしたいのは、39番「圏域観光交流連携推進事業」について、行政だけでなく、北はりま田園空間博物館なども交えていただくと、また違ったアイデアが出てくるのではないかなと思う。みんなにアピールしていくことが大事だと思うので、取組を進める際にはぜひ誘っていただきたい。
- (委員)・斎場では、増設により葬儀を1日に3回行えるようになるのか。
- (行政事務組合担当)・3回できるようになる。
- (委員)・そうすると、早い時間の葬儀に駐車場を占拠されてしまい、午後からの時間帯に車を止められなくなる。葬式に行かれる方は年配の方が多く、下の駐車場から歩いて上がるのは苦痛である。何とか考えてほしい。
- (委員)・定住自立圏という言葉は新聞紙上でも目にし、多可町では政策レーダーにも

記載されていたので、言葉について少しは知っていたが、一般住民の方々がどれだけ知っておられるのか、という点が気になる。定住自立圏をもう少しPRする方法を考えていただきたい。

(座長)・定住自立圏の中の事業について、事業相互のタテの連携、ヨコの連携も考えながら、単独で進めていくのではなく、合わせ技で進めていく方が事業効果も高まると思うので、そのように取組を進めてほしい。

## 5 その他：委員の改選について

委員の任期は2年で、この3月末日までが委員の任期となる。そのため、来年度は委員の改選を予定しており、現在の委員の皆様での協議は本日が最後となる。

来年度は、会議の開催時期は未定だが、新たな事業連携などを取りまとめた段階で委員の選定をさせていただき、今年度より早い時期に会議を開催したいと考えている。

委員の皆様には、一昨年の11月以降、定住自立圏共生ビジョンの策定と推進に多大なるご尽力をいただき、熱心に議論をいただいたことにお礼を申し上げたい。

## 6 閉会（多可町長あいさつ）

一昨年から4回の会議の中で、委員の皆様には熱心にご議論をいただいたことに感謝申し上げます。

もともと医療というものが一つのテーマとしてあるが、ビジョンの中にも記載されているように、多可赤十字病院などとも今後うまく連携を取れるようにしていきたい。

西脇多可の高校駅伝についても、今後どう情報発信をしていくかということが大事だと思う。例えばテレビの中継など、できるかどうかを考えていきたい。

有害鳥獣の中でシカ肉の話があったが、フェイスブックで情報を発信する中で、それはどこで買えるんですか、という問い合わせもある。また、あるホテルからぜひ使いたいという話もあった。外部の人材をうまく活用しながら情報発信を進めていきたいと思っている。

先ほど座長がおっしゃった合わせ技、ということについても、駅伝のコースを整備する、ということを県道中安田市原線の道路整備につなげていくなどの発想が必要な気がする。

再生可能エネルギーについても、西脇市と一緒にやるならば、例えばチップやペレットを燃料とするストーブを使って、産業として成り立たせていく、ということも考えられる。また、太陽光発電等についても、定住自立圏をベースに民間活力を活用することも考えなければいけない。

合わせ技で考える、楽しみながら考える、ということ、それといかに人を巻き込むか、ということを考えていく中で、定住自立が進んでいくと思っている。

重ねて、これまでのご精励にお礼を申し上げ、閉会のごあいさつとさせていただきます。